

4-12 塀の安全対策

塀の構造

共同住宅には、多くの世帯が居住しますので、火災や地震などの災害が発生したとき、安全か昭和53年6月12日に起きた「宮城県沖地震」では27の方が亡くなりました。そのうち17の方はブロック塀の倒壊によるものでした。

平成7年1月17日に起きた「阪神・淡路大震災」では、神戸を中心に6千人以上の方が建物の倒壊等で亡くなりました。また、平成23年3月11日に起きた「東日本大震災」では、東北地方の太平洋側の地域を中心に1万5千人以上の方が津波の被害により亡くなりました。どちらの地震も、塀の倒壊による死者は報告されていないものの、塀の損壊は多数生じました。

近年起きた地震でも、塀の損壊が多数生じており、なかには、塀の倒壊による死者が報告されているものもあります。

現在世田谷区内にはブロック塀、石塀等、重量のある塀が多く存在しますが、施工方法や材質・形状等に問題があると地震に弱く、危険なものになってしまいます。さらに避難や救助・消火活動の障害にもなることが予想されます。

ブロック塀、石塀等を安易に考える事なく、粗悪工事による危険性を十分認識して、重量のある塀を造るときは、基準を守り正しい工事を行ってください。

古くなったブロック塀等、危険をはらんだ塀については、生垣・鉄網フェンス等、安全なものに改修するよう心掛けましょう。

ブロック塀が倒壊した原因は

- ①高さが高いもの
- ②壁の厚さが不足しているもの
- ③控え壁がないもの
- ④基礎に欠陥があるもの
- ⑤スカシブロックを多く使っているもの
- ⑥鉄筋不足や、基礎への鉄筋定着長さが不足しているもの
- ⑦鉄筋の回りのモルタルが十分詰まっていないもの

等の欠陥工事によるものがほとんどでした。

いざというときに備えて、特に地震で被害を大きくするブロック塀などについて、もう一度点検して安全を確かめておきましょう。

①～⑤までは外観からでもわかります。ぜひチェックしてみてください。

また、塀の基準や点検・補強について、区が作成した、小冊子『安全なまちづくりへ向けて』を是非ご活用ください。



